ninoyu satoshi

発行所：みんなで政治を考える会
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2
ハウスドゥ四条ビル601
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310

発行人：二ノ湯 智
国会事務所
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館921号室
TEL.03-6550-0921 FAX.03-6551-0921

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平成を希望する言葉です。　題字：栢木寛照

えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)
第3種郵便物認可 平成2年1月18日
口 座 01000-4-62360

平成26年 No.262 1・2月合併号

京都の智恵を日本に活かす。
二ノ湯智ホームページ http://www.ninoyusatoshi.com

通常国会開会、強気の首相
安倍内閣にとって正念場の年

国民、景気回復を実感できるか

第186通常国会が、1月24日に召集された。今国会は平成25年度の5・5兆円の補正予算と26年度の一般会計予算を審議する重要な国会である。経済の好循環環境を実現するためには、本予算の年度内成立を図らなければならない。参議院では1月29、30日で本会議、2月5、6、7日で予算委員会が開かれた。補正予算の審議は自民党がかなり野党に配慮して、丁寧な国会運営に努力、大した波乱もなく、2月6日に参議院本会議で可決された。補正予算の成立で、地方の自治体に資金が回り、地方経済にいい環境をもたらすと期待されている。補正の次は、総額92兆6千億円の当初予算である。アベノミクスの成果を国民が実感するためにも、年度内成立を果たし、国および地方で成長戦略を活発化させなければならない。国民は安倍内閣の経済政策に大きな期待を寄せており、裏切ってはならない。安倍内閣にとって真価を問われる正念場の年である。

補正予算を審議する参議院予算委員会で答弁する安倍首相

恒心

★日本人は仕事の虫と言われている。中でも朝から晩まで働きづめで、一番の激職は誰かと言えば、内閣総理大臣だと思う。通常国会が始まり、衆参両院本会議での所信表明演説、その後代表質問が待っている。本会議は代表質問であり、答弁は原稿を読めば済むことができる。★予算委員会は一問一答形式となり、息を抜くことが出来ない。まして野党の質問者は、大臣で済む答弁でも、テレビ中継を意識して、極めて専門的、細かい質問をして、総理の答弁を欲しがる。問題点を質すのが目的か、失言を引き出したいのか、パフォーマンスなのか、真意が分らない。★地方議会では、知事や市長は提案説明と最後の総括質疑以外、通常出席しない。ほとんど担当責任者である部長、局長が対応する。諸外国のトップリーダーで日本ほど国会に拘束される国はないのではないか。1日中、国会に拘束されていては、人に会うこともままならい。国家の重要な政策を考えることも出来ない。こんな状態でいいのか。総理をもっと自由にして、時間的余裕を与え、常に大所高所から国家の行く末を考えて貰わないといけない。★2月8日、ロシアのソチで冬季オリンピックが開催された。首相はプーチン首相に会い、日ソ平和条約の締結、そして北方領土返還にメドをつけなければならない。だが、野党は7日の午前中まで、首相を予算委員会に拘束、首相は急ぎ足で北方領土返還要求国民大会に出席、羽田から政府専用機で約11時間掛けてソチに向かった。滞在1日、とんぼ返りで10日午前9時から衆院予算委員会に臨んだ。まさに殺人的スケジュールである。野党は働く人の過労死は問題にするが、一国の総理をこれほど酷使していいのか。

参議院総務委員会、参考人招致

百田、長谷川両氏を求める

平成25年度の補正予算を審議する衆参予算委員会の質疑を見ていても、安倍首相のやや過信とも見える堂々たる答弁ぶりに比較して、民主党はじめ野党の質問の迫力不足は否めない。新聞テレビ等でも指摘されているように、一強多弱で自民党だけが目立ち、野党の力量不足が甚だしい。安倍内閣の政策を追求する焦点が定まらず、しかも野党の足並みが乱れていては、今の安倍内閣などとても野党の敵ではない。内閣を追及する目玉探しに躍起となっていたが、ここに来て籾井勝人ＮＨＫ会長、百田尚樹、長谷川三千子経営委員の発言問題が槍玉に挙がっている。籾井会長の発言は「ＮＨＫの国際放送は、日本政府と全く違った内容の放送をすることは出来ない。慰安婦は今のモラルでは悪いが、戦時中どこの国にもあった」と言う内容。当日の記者会見の議事録を読んでみたが、記者連中は何とかして、会長の失言を引き出そうとして、しつこく質問していた。この程度の発言によってＮＨＫ会長の資格がないと追求されたら、誰もなり手がなくなる。民間での高い社会的地位と高額の報酬を捨てて、その何分の１かの報酬で、国家のために奉仕しようとしている民間人会長にご苦労様と声をかけても、おまえ辞めろとは言えないのではないか。百田、長谷川両氏は作家、学者として自らの見識を披露した。百田氏は少し言い過ぎの面があるが、誰しも持論はある。人柄はいい。目くじらを立てるほどのことはない。ただ百田、長谷川氏とも安倍首相との関係が非常に近いために、経営委員に任命した安倍首相の責任を追及したいようである。経営委員に問題ありとすれば、経営委員長又は経営委員長職務代行者が経営委員会を代表して国会対応すべきであり、個々の経営委員を国会に呼ぶのは適当ではない。両氏ともＮＨＫ経営委員として就任された上は、その職務上、公平、公正な立場を堅持するのは至極当然であり、両人ともその点は十分に弁えておられる。わかり易く言えば、知事、市長でも政党の公認、推薦で当選しても、いったんその立場につけば、政党の干渉を排除し、全体の奉仕者として、公平、公正に自治体を運営しなければならないのと同じである。３氏の発言によって、ＮＨＫの放送内容が偏向するのではないかと心配する声があるが、取り越し苦労である。

参院選挙制度の改革

待ったなしの課題、今年中に法律改正

平成22年７月に行われた参議院通常選挙において、１票の格差が５倍近くを超える選挙区があり、先の参議院選挙は憲法違反であると、弁護士グループが選挙無効の訴訟を起こした。平成24年10月、最高裁判所は「選挙区間の投票価値の不均衡は、違憲の問題が生ずる程度の著しい不平等状態に至っていた。投票価値の平等の要請を考えれば、より適切な民意の反映が可能となるよう、都道府県を単位とした選挙区の方式をしかるべき形で改めるなどして、不平等状態を解消する必要がある」と判決を言い渡した。最高裁の判決が出された以上、参議院選挙制度改革は待ったなしの状況である。次期の参議院通常選挙（平成28年７月執行予定）は１票の格差を抜本的に解消するような選挙制度で行わなければならない。参議院では最高裁の判決を受けて、平成25年９月12日に山崎参議院議長の下で、「選挙制度の改革に関する検討会」が開催され、「選挙制度協議会」が設置された。協議会の座長には、参院自民党幹事長の脇雅史氏が指名された。「良識の府」参議院にふさわしい選挙制度をどう構築するのか、総論は簡単であるが、各論となると議員の身分に関わる死活的に重要な問題であるだけに、脇座長も頭が痛い。脇座長は「現憲法下で、党派性にとらわれない抜本的な改革案を、座長の試案として出し、それをたたき台に議論して貰いたい。そして遅くとも今年中に、法律を改正したい」と語っている。参議院選挙制度の抜本的改革は、単に選挙制度の改革にとどまらず、都道府県制度のあり方にも、大きな影響を与えることになる。

統一選で多くの女性議員を

地方議員の身分の安定が前提

政府は国家公務員の幹部職員の女性割合を30％にすると言明しているが、実現はかなり難しい。無理にその目標を達成するとなると、女性の能力と関係なしに抜擢せざるを得なくなる。それはまた男性職員との不公平を招くことになる。先日、自民党の役員会で、来年の統一地方選挙で、多くの女性議員を誕生させようという声が出た。政治家は男性の専業ではない。女性の声を政治に反映させるために女性議員の進出は歓迎するところである。ところで今、地方議会では女性候補どころか、男性でも議員志望者が非常に少なくなってきている。特に若い人となると、２世以外で見つけるのは至難の技である。なぜ若い男女が政治に関心を示さなくなってきたのだろうか。理由は色々挙げられるが、大きな要因の一つに生活の不安定がある。かって地方議員にも年金制度があったが、現在年金制度はない。議員個人は各自が国民年金に加入しなければならない。選挙は厳しい、年金は無い、報酬の割には多くの出費がかさむ、常時有権者の批判に晒される。こんな仕事に安定した会社勤めを辞めて政治の世界に入ってくる人はほとんどない。若い男女を政治の世界に進出するのを手助けするためにも、せめて一般社会並みの年金制度が必要である。自民党では今後、地方議会出身者を中心に地方議会年金制度について研究することになった。

参議院総務委員会の議員派遣

2月24～25日、兵庫県、京都府に

参議院総務委員会(山本香苗委員長)では、兵庫県、京都府における行財政状況、消防及び情報通信等に関する実情調査のため、2月24日(月)～25日(火)の2日間、兵庫県、京都府に議員派遣を実施することになった。西宮市ではマイナンバー制度の運用状況、神戸市ではNTT西日本オペレーションセンターを訪問、昨年10月、神戸市長に当選した久元喜造市長と懇談、京都市では山田啓二知事、門川大作京都市長と、府県と大都市との二重行政の問題点、その解決策について意見を交換する。さらに和食が世界遺産に登録され、それを契機に、積極的に観光振興に取り組んでいる京都市担当者との懇談も計画している。そして、京都市が誇る「京都市消防活動総合センター」と高台寺駐車場に整備された「耐震型大型防火水槽」を視察することになっている。なお、二ノ湯参議院議員は、総務委員会に所属、与党の筆頭理事を務めている。

都知事に原発再稼働容認派の舛添氏、

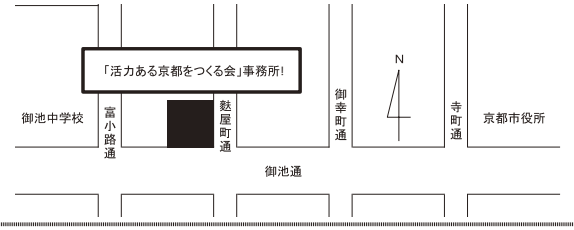
脱原発、反原発に都民賛同せず

東京都知事選挙は事前の世論調査の予想通り、自民党、公明党が推す元厚労大臣舛添要一氏が、共産党推薦の宇都宮健児氏、小泉元首相の支援を得た元首相細川護熙氏、石原慎太郎衆議院議員が推す無所属の田母神俊雄氏の3氏に大差をつけて初当選を果たした。今回の選挙のテーマは原子力発電所再稼働の是非を問う選挙と言われた。都民は原発の再稼働にも強い関心があるが、今後東京都は急速に高齢化が進行すると言われており、福祉、医療はどうなるのか、無関心ではいられない。子育ても重要な政策である。知事選挙の争点は原発だけではない。しかし、東京は日本の人口の約1割が住み、しかも東京都は東京電力の大株主であり、東電の経営に大きな影響力を持っている。もし、細川氏、又は宇都宮氏が知事に当選すれば東京電力の原発再稼動は非常に困難になり、再稼働に踏み切りたい安倍政権にとっては大きな痛手となる。再稼働に理解を示す舛添氏が当選して、政府も一安心である。ただ、細川、宇都宮両氏の票を合計すれば舛添氏の票に近くなる。それだけ都民に反、脱原発を支持する人が多いとも言える。現在安倍内閣の支持率は経済政策への期待で高いが、近い内に国民が景気回復を実感しなければ、支持率も下がり、自民党内から批判の声が上がり、すんなりと再稼動を実施できないかも知れない。集団的自衛権、憲法改正、原発再稼動等、国論を二分する難しい問題をしばらく側に置いて、アベノミクス成功に全力を尽くすべきである。舛添氏の当選に浮かれてはいけない。

「活力京都」候補者の事務所が決まる 京都市役所西の超一等地

かって京都府知事選挙と言えば、全国注視の激しい自共の戦いであった。自民党京都府連は、強敵蜷川虎三知事に敗退を繰り返し、何度悔しい思いをしたかも知れない。だが昭和53年林田府政が誕生して以来、知事選挙は全く様変わり、静かな選挙となってしまった。選挙で一番頭が痛いのは、交通至便な選挙事務所を設置することである。都心で格好の物件は滅多にない。「活力ある京都をつくる会・略称活力京都」推薦の現職山田啓二陣営では以前から、関係者が事務所を物色していたが、超一等地に空きビルが見つかった。場所は御池麩屋町北西の電通京都支社だったビル。5階建、駐車場も完備、冷暖房設備、ガス、水道も使用できる。今までの知事選挙事務所の中で、最高の物件である。2月17日から事務職員が準備作業に取り組んでいる。

「活力ある京都をつくる会」
京都市中京区御池通麩屋町西北角上白山町259
☎075-241-2500



3府会補欠候補者の事前ポスター

4月6日の知事選挙と同時に執行される3選挙区の予定候補者のポスターが完成した。

園崎弘道氏(城陽市)

藤山由紀子氏(宇治市・久世郡)

池田岩太氏(京都市北区)

山田啓二知事を励ます
活力京都総決起大会

大安心・大交流の時代へ

山田啓二知事を励ます活力京都総決起大会

とき　**平成26年3月15日(土)**　午後2時～

ところ　**国立京都国際会館**
メインホール（大会議場）（京都市左京区宝ヶ池）

身辺雑記

一、安倍首相が年末、靖国神社参拝を実施した。たちまち内外から様々な反応が出ている。一国の首相が英霊の祀ってある神社を参拝するのは至極当然であるという半面、中国、韓国を刺激し、両国関係がさらに一層悪くなるという声もある。

一、沖縄県知事が辺野古沿岸部埋め立てを承認した。知事は県民の気持ちを考え県外への移設を思っている。だが申請書類に不備がなく、行政の長としては認めざるを得なかったのであろう。正に苦渋の選択である。

一、東京都知事選挙が終わり、舛添氏の圧勝に終わった。注目の候補者細川氏は小泉元首相の応援にも関わらず意外に票が伸びなかった。細川氏の候補者としての魅力のなさか。それとも小泉氏の力量不足か。

一、楽天の田中将大投手が大リーグのヤンキースへ入団した。7年間で総額160億円という天文学的数字。それだけ期待が大きいが、本人のプッレシャーは相当きついと想像する。先ず、最初の試合で成功することが大事である。

一、アクリフーズの農薬混入事件で、容疑者が逮捕された。容疑者はそこで働く契約社員であった。犯行の動機は何年働いても正社員になれず、給料も上がらないことへの不満のようだ。契約社員制度は日本社会に馴染まないのではないか。

一、ソチの冬季オリンピック大会が終わった。メダルを期待されながら力を発揮出来ず、涙をのんだ選手も多い。4年に1度しかないオリンピックで勝利することは大変難しい。運と実力が一致しなければならない。

一、日本の最大の課題は人口減少をどう食い止めるかである。増やす方法は移民の受け入れか。婚外子を認めるか。最も重要な事は若い人に子供をたくさん産んで貰うこと。安倍首相は移民受け入れに言及した。今後論議を呼びそうだ。

「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。

是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会　年会費　1万円

入会申込・お問い合わせ先
二ノ湯さとし事務所　☎075-315-2228

寒中お見舞い申し上げます。

平素は、私の政治活動にご理解ご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。今年の冬は例年になく、厳しい寒さが続いています。風邪で体調を崩された方も多いようです。くれぐれもご自愛いただき、元気でお過ごし下さい。私も皆様からの温かいご支援に、感謝の気持ち忘れずに、国会議員としての責任と義務を果たすために、精一杯努力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成二十六年二月二十一日

参議院議員　二之湯　智

「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は
毎月一回の発行です。

毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい

年間購読料　1200円

郵便振替口座　01000-4-62360
口座名：みんなで政治を考える会

― お問い合わせ先 ―
二ノ湯さとし事務所
電話　075-315-2228

ホームページを開設いたしました
http://www.ninoyusatoshi.com

「日本真生塾」　例会のお知らせ

第41回 3月31日(月) 18時～21時

第42回 4月28日(月) 18時～21時

場所：**龍谷大学アバンティ響都ホール**
（京都駅八条口前アバンティ9F）

テーマ：『凸型西洋文化の死角』
西洋文化の根本を見直し、グローバル化について考察します

＜お問い合わせは事務局へ＞（担当：奥井寛之）
日本真生塾事務局（二之湯事務所内）TEL：075-351-2228／FAX：075-315-2310
詳しくはFacebookページをご覧ください。https://www.facebook.com/nipponshinsei

日本真生塾　塾長　**岡本幸治**